

学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

1月号



黒門

令和6年1月9日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

たのしく！ つよく！ どうどうと！ しあわせに！

校長 石田 隆

心新たに新しい年を迎えられたことと存じます

植物の種子の状態を表すともいわれる「十二支」。今年の辰(たつ)は、「茎や葉がよく育ち形が整う状態」という意味があるそうです。また、辰は十二支の中で唯一空想上の生き物ですが権力や隆盛の象徴であるとも言われています。6年生と訪れた日光東照宮・薬師堂の天井に生き生きと描かれていた龍とその響き渡る鳴き声のごとく、これまでの蓄積を整え、力強く昇龍する黒門小学校を目指して今年も尽力して参ります。

*

「あ、ここで、ついて 食べるんだあ〜」

2学期最終日。育ての会主催の「おもちつき会」が行われました。会場(体育館)で、わくわく感じっぱいの子供たちが、一人ずつ杵を持って、「よいしょ! よいしょ!」と声を合わせました。先生や友達を応援する声と笑顔が広がりました。「餅をつく」そして、**今年はその場で「食べる」という貴重な体験で、楽しく一年の締めくくりができました。**

下校時に、玄関に飾られた「鏡餅」に興味津々の子供たち。「え!? さっき、ついたおもちなの?」「さわってもいいですか?」と驚いたり、指を餅に近づけたり。手を合わせて何か願い事をする児童も…。計画準備・運営いただきました育ての会・同窓会の皆様に感謝申し上げます。

*

「アメ横商店街」のにぎわいは、我が国の元気の象徴!

毎年、年の瀬の新聞・テレビ等で、正月向けの食材を買い求める人々でにぎわうアメ横の様子が取り上げられます。新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類になって初めて迎えた年末12月30日には、(アメ横商店街連合会によると)昨年より約16万人多い、約63万人が訪れたとのことでした。アメ横は、人々の生活の今を伝える指標となっており、そのにぎわいの復活は日本全国の活気であり、全国津々浦々に元気を伝えるものと言えるでしょう。

本校児童が生活科や総合的な学習の時間で、繰り返し訪れる、いわば**学びのホームグラウンドである上野・アメ横**の存在価値を子供たちとも再確認したいです。

*

年始に大きな地震や事故がありました

石川県珠洲市にいる大学時代の友人と LINE で新年の挨拶を交わしたその15分後に大きな地震が発生しました。母校で校長をしている友人が日々過ごしている町が壊滅状態となり、(彼の)知り合いかもしれない人々が途方に暮れている姿に心が強く痛みます。今年はずし振りに家族が集まって楽しい正月を過ごそうとしていた方も多かったでしょう。そして翌2日、羽田空港で起きた事故で飛行機が炎に包まれる映像も衝撃でした。被災された方、関係の皆様の中を察するに余りあります。

*

あらためて、今に感謝し、自分には何ができるかを考えながら子供たち、教職員と一日一日を大切に3学期を過ごしていきたいと思いました。今年もよろしくお願いいたします。